

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL
11
2008



患者様から学び、患者様に還元する病院

愛媛大学医学部附属病院

がん患者様の苦痛を取り除くため、新たに「緩和ケアセンター」を設立

緩和ケアセンター センター長 長櫓 巧 医師



様々な分野の専門家からなる「緩和ケアセンター」

「緩和ケアセンター」は、平成19年11月に設立された新しいセンターです。各分野の専門の医療スタッフが、がんに伴う痛みなどのいろいろな苦痛を取り除くことを目標にしています。当院では当初、麻酔科の「ペインクリニック」で、がん患者様の痛みの治療を行っていましたが、平成15年3月から、麻酔科医師、精神科医師、看護師が「緩和ケアチーム」として活動を始めました。昨年4月に「がん対策基本法」が成立し、緩和医療が重要視されるようになっています。昨年1月に当院が「がん診療連携拠点病院」の指定を受けたこともあり、さらに緩和ケアを充実させるため、セン

ターよりなりました。センターとなったことで、これまでの麻酔科医師、精神科医師、看護師に加え、薬剤師、メディカルソーシャルワーカー、理学療法士、管理栄養士、腫瘍センターの医師が参加しています。これまで以上に、患者様の総合的なケアができる体制になりました。

当センターでは、がんによる痛み、全身倦怠などの体の苦痛、不安、うつなどの精神的な苦痛を抱えた患者様が対象となります。また、がんの患者様には、食物を食べられない辛さや、薬について不明なこと、経済的なことまで、いろいろな心配事や悩みがあります。それらを主治医、看護師、当

センターの多職種のスタッフが集まり、知恵を出し合って、解決していきます。患者様一人ひとりのニーズに応え、地方でも最先端の治療、ケアができるようにしたいと思っています。

現在は、入院患者様のケアが主ですが、これからは退院される方、在宅で治療される方のサポートを進めていきた



PROFILE

ながろたくみ ◎大学院医学系研究科 生体機能管理学分野教授。1974年岡山大学医学部卒業。1976年より当院勤務。麻酔科、ペインクリニックを専門に活躍。趣味は野山を散策しながら、鳥や樹を見ること。好きな鳥はアオバズク(クロウ科)。

いと考えています。在宅介護や治療の相談については、既に当院の医療福祉支援センターが行っていますので、連携し、継続的に最適な治療、ケアが受けられるようになります。そのためにも、地域医療機関や地域病院との連携を強め、ネットワークを強化したいですね。

私は麻酔科医で、痛みの治療が専門。頭から足の先まで、あらゆる痛みが対象です。痛みがある人は話をすることが大切。その痛みを理解してあげることで、患者様が楽になることもあります。がんなどの場合、患者様ご本人だけでなく、家族の方が苦しみを抱えることも少なくありません。ご家族の方の支援、ケアも必要不可欠です。

当センターはできて間もないこともあります。患者様の多くの要望に対応できるよう、専従のスタッフを置き、周囲からも認められる、利用しやすいセンターにしていきたいですね。現在は、主治医からの紹介で、当センターのことを知っていただけたケースがほとんどです。これからは、こちらからアピールして、おせっかいなくらいの存在になりたいと思っています。



医療福祉支援センターと打合せ

重症の顔面神経麻痺に、新たな手術治療法を発信

耳鼻咽喉科 病棟医長 羽藤直人 医師



PROFILE

はとうなおひと◎愛媛大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科講師。1989年愛媛大学医学部卒業。医学博士。1999~2001年スタンフォード大学留学。顔面神経麻痺を専門に耳科学分野で活躍。趣味はゴルフとヨット。仲間と共にヨットを所有し、レースなどにも参加。

私は神経耳科学、特に顔面神経麻痺を専門としています。顔面神経は顔の表情を作る顔面筋を支配しています。ある日突然、顔が歪み、目や口が閉まらなくなる、このような症状が片側に生じるのが顔面神経麻痺です。顔面神経には様々な神経が含まれているため、目が乾く、味覚が変わる、耳が痛いなどの症状も出ます。厄介な病気ですが、誰でも突然罹る可能性があり、日本では年間6万人以上が発症。顔面神経麻痺の多くは、神経内に潜んでいるヘルペスウイルスが原因で生じます。愛媛大学では、このウイルス性麻痺の発症メカニズムと、治療法を世界に向けて発信しています。治療はステロイドと抗ウイルス薬の投薬が中心ですが、早く薬を飲まないと麻痺が重症化することもあります。麻痺が治るまでには早くも1ヶ月、遅ければ

1年以上かかります。9割は完治しますが、後遺症が残ってしまう方も。高度麻痺となった場合、耳の後ろを切って骨管の中で圧迫されている神経を減圧する、顔面神経減荷手術が必要になることもあります。この手術は、手術適応や、手技などに解決すべき問題が多いのが現状。当院ではこれを改良し、神経を元気にする特殊な薬剤を顔面神経へ直接投与することで、神経の再生を促進する、世界初の手術治療を開始しました。今はまだ研究段階ですが、将来、神経再建手術の主流となるような、人工神経の開発も行っています。

顔面神経麻痺をきちんと治すためには、早期に治療することが重要です。手術が必要かどうかなど、治療法の判断は発症2週間以内に行うのが理想ですので、早めに紹介またはご相談ください。

がん手術も低侵襲の時代。患者様のために、最先端の医療を提供

低侵襲・がん治療センター センター長 渡部祐司 医師



PROFILE

わたなべゆうじ◎愛媛大学医学部附属病院 低侵襲・がん治療センター准教授。1983年愛媛大学医学部卒業。医学博士。1988~1990年(西)ドイツ留学で肝胆脾臨床を研究。消化器疾患の外科治療、低侵襲手術を専門に活躍。趣味はギター。疲れた頭と身体を休めるため、ボサノバやジャズをつま弾く。自宅に音楽スタジオを持つ。

私は食道、胃、大腸、肝臓、胆のう、脾臓といった消化器疾患の外科治療を24年間専門にしてきました。がん手術では、拡大切除して根治が期待できるものは、徹底した拡大手術を行います。一方で腫瘍が小さい場合は徹底した縮小手術、特に低侵襲手術という内視鏡外科手術を行っています。内視鏡外科手術は、特殊であるため十分なトレーニングが必要です。最近は学会の技術認定制度も定着し、認定医が増えています。当院では県内および中四国の中の医師の技術向上や、安全な治療技術習得を目指し、全国に先駆けて低侵襲手術のトレーニング施設を開設。定期的な講習会の開催や、高度な技術を持った専門医を招いての講習などを行っています。大学病院の良さは、診療科を横断できる治療ができます。これまで各診療

科の専門スタッフとの共同手術を数多く施行してきました。私たちは、最先端の治療が提供できることを誇りに思っています。

私は常に患者様を如何に安全に治すか、また根治性が同じなら痛みや傷を小さくして、社会復帰を早めることを外科医になった当初から目標にしてきました。私の医師としてのモットーは、知技情創。知識、技術、思いやり、創造力をすべて備えるべく、日々努力しています。研究においても、がん治療に対する治療法の開発のためベンチャー会社を設立し、医学部、理学部、工学部、企業で共同して新しい治療器具の開発に着手しています。

消化器外科疾患で困っている患者様がいらっしゃいましたら、良性、悪性を問わずご紹介ください。低侵襲治療が可能かどうかなどの問い合わせでも結構です。

愛媛大学医学部附属病院 センター・施設のご紹介

お気軽にご相談ください

最先端技術のリハビリテーション治療



愛媛大学は松山市と共同で「次世代医療福祉産業の定着・創出に関する調査研究」に取り組んでいます。現在、愛媛大学医学部附属病院では、その一環でロボットスツーツHAL(Hybrid Assistive Limb)を活用したリハビリテーション治療に関する臨床研究を行っています。HALと

は、筑波大学と大学発のベンチャー企業・サイバーダイン社が開発した世界初のサイボーグ型ロボットで、リハビリテーション支援や身体訓練支援、自立動作支援などの分野で利用が期待されています。本実験は、筑波大学の協力のもと、本院リハビリテーション部が中心となり地域の他機関とも連携しながら進めています。今後は、身体面で困難を抱えた方にご協力をいただきながら、治療効果の検証等を行っていく予定です。

こうした産官学の共同研究によって、次世代医療・福祉産業の地域への定着と拡大に繋げたいと考えています。



愛媛大学地域創成研究センター TEL:089-927-8653 FAX:089-927-8820
松山市地域経済課 TEL:089-948-6710 FAX:089-934-1844

クリスマスコンサートを開催



平成19年12月25日(火)外来棟正面玄関ホールでギター演奏によるクリスマスコンサートを開催しました。会場には入院患者様を中心に約80人がつめかけ、愛媛大学教員アコースティックギターバンドメンバーの法文学部教授2人と、愛媛大学ギター部の学生2人による繊細なギターの音色に耳を澄ませていました。会場に訪れた人たちからは暖かい拍手が寄せられました。

医療サービス室(患者サービス担当)

TEL:089-960-5099
FAX:089-960-5134

院内保育所「あいあいキッズ」



平成19年4月に職員の子育て支援を目的に敷地内にオープンした「あいあいキッズ」では、平成20年1月現在24人の子どもたちが毎日元気に遊んでいます。平成19年10月に(財)愛信会から寄附を受け、子どもが遊ぶ庭に芝生を張りました。また、同年12月7日(金)には、看護部が院内でバザーを実施し、売上金を遊具購入資金として寄附するなど、子ども達の成長を見守っています。

人事労務室職員チーム

TEL:089-960-5129 FAX:089-960-5131
URL:<http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/aiaikids/index.html>

“すこやか健康相談／ あいナビステーション”が スタート

昨年11月28日(水)、愛媛大学と松山市の協定の一環として、いよてつ高島屋7階わくわくプラザに、市保健所と協働した健康相談窓口「すこやか健康相談／あいナビステーション」を設置しました。ここでは、本院の看護師や社会福祉士が市保健所の職員とともに、地域の皆様からの医療福祉の相談に無料で応じます。買い物のついでなどお気軽に立ち寄りください。(オーブン日時／水・木・金・土・日 10:00~17:00、なお電話相談は行っていません)

少子高齢化や医療・介護制度等の変化に伴う住民の方々の疑問や不安の受け皿として、また、住民の方々のニーズをとらえるためのアンテナ及び情報発信拠点としてこの「あいナビ」をさらに充実させて参りたいと思います。

◎問い合わせ先：
医療福祉支援センター
TEL:089-960-5322
FAX:089-960-5959
E-mail:
sien@m.ehime-u.ac.jp

編集後記

新春おめでとうございます。INVITATION誌の2008年第一号をお届けします。今回は、松山市内に設置した健康相談窓口「あいナビステーション」を表紙に、愛媛大学が力を入れているがん治療に重要な緩和ケアセンターの設立、最先端技術を用いた介助ロボットの開発など、大学が得意とする共同研究や協働事業の話題を紹介しました。愛媛大学病院は高度の診療能力に加え、研究や創意工夫を通して患者様が明日への希望を抱くことのできる病院でありたいと願っています。本年もよろしくお願ひいたします。

◎愛媛大学医学部附属病院広報委員会
委員長 檜垣實男

◎表紙の人
友川 礼 社会福祉士(左)
小畠理恵 看護師(右)
——あいナビステーションにて——



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 Tel.089-964-5111 (代)
ホームページ <http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>